



## 4 成果

- (1) 生徒会を中心とした行事「兼中祭」を企画から運営までさせることで、計画的に話し合い活動を取り入れることができた。その結果、児童生徒質問紙の「学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていると思いますか。」の項目において、34%から36%とわずかだが増えた。
- (2) 管理者の助言のもと、全校体制で「『問い』が生まれる授業づくり」に取り組んできたことで、学校評価アンケートの「先生方は教え方を工夫しており、授業はわかりやすい」の項目において約9割近い生徒が肯定的な回答が得られた。

## 5 課題

- (1) 「スケジュールノート」を活用する習慣がまだ身につけていない生徒がいるため、今後も各学級や書く教科で指導を継続していく必要がある。また、生徒の「自主性」を伸ばし、「計画性」を身につけさせるために、家庭への協力依頼の必要性を感じる。
- (2) 県生徒質問用紙より、「家で自分で計画を立てて勉強をしているか」の項目において、約4割の生徒が肯定的な回答をしていないことから、主体的に学習に取り組むことに課題が見られる。そのため、日々の授業改善や学習環境改善を軸とし、自立した学習ができるような支援の工夫が必要である。